

平成26年9月 南魚沼市議会定例会  
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質問者
1	18	岡村雅夫
2	16	寺口友彦
3	14	黒滝松男
4	17	中沢俊一
5	22	牧野晶
6	10	林茂男
7	7	桑原圭美
8	15	中沢一博
9	1	永井拓三
10	4	清塚武敏
11	2	塩川裕紀
12	19	今井久美
13	5	勝又貞夫
14	20	腰越晃
15	6	佐藤剛
16	8	山田勝
17	26	若井達男
18	12	塩谷寿雄
19	13	小澤実
20	25	樋口和人
21	23	阿部久夫
22	11	鈴木一
23	3	田村眞一
計		23名

**【質問方式】**（いずれの場合も質問制限時間（答弁時間を含まない。）は30分）

**一括質問一括答弁方式**：全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。

（初回は登壇して行い、質問回数は3回まで。）

**一問一答方式**：質問及び答弁を一問ずつ行う。

（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし。）

**複合型一問一答方式**：一問一答方式において、当該質問項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。

質問 順位	質問内容
1	1 原発再稼働について
議席	(1) 福井地裁の大飯原発運転差止め判決の感想は。
18	(2) 福島地裁の原発自殺訴訟判決の感想は。
岡	(3) 柏崎刈羽原発で過酷事故が起きた場合の防災計画（避難計画）は。
村	(4) 再稼働容認の考えは変わらないのか。
雅	2 医療・介護総合推進法について
夫	(1) 医療・介護はどう変わっていくのか。
	(2) 市の裁量が問われてくるが、どう計画していくのか。
(一問一答方式)	





質問 順位	質問 内 容
4	1 白穂・着色粒被害を支援し、「トップ銘柄米産地」の信頼を死守せよ
議席	
17	
中 沢 俊 一  (複合型 一問一答方式)	<p>8月10日の台風11号によるフェーン現象は、出穂直後の南魚沼産コシヒカリを直撃し、魚野川東部を中心に甚大な被害を及ぼした。「白穂」による減収に加え、強風からくる着色粒の混入により、「南魚沼産コシ」の評価を著しく損なう恐れがある。市はJA、県等と連携し、以下4点の農家支援を行うことで、トップ銘柄米産地としての信頼を死守すべきである。</p> <p>(1) 被害認定ほ場に対する、色選機使用料への助成  (2) 着色粒混入米の中間貯蔵施設等を確保し、色選機の活用を促進すべし。  (3) 被害を受けた他の自治体と連携し、県に対して農家の借入金利軽減を要請せよ。  (4) 着色粒除去作業による出荷遅れに対し、「仮々渡し金」の支給をJAに要請すべし。</p> <p>2 「プラチナタウン」構想により、若者の定住・起業環境を創出せよ</p> <p>8月25日、大手シンクタンク「三菱総合研究所」の主席研究員及びいがた産業創造機構担当者が市長を訪問した。国際大学副学長や大手酒造経営者等と面会する中で、南魚沼市が「プラチナタウン」構想の最適地であることを提唱したと聞く。</p> <p>経済的にゆとりのある高齢者の移住を大量に受け入れ、退職後の豊かな楽しみ方や医療・介護サービスを終生保証するというプラチナタウン構想は、単なる福祉事業ではなく、国策を背景とした壮大なる新産業創出事業である。</p> <p>複数の有力調査機関から「お墨付き」をいただいた以上、市は時を移さずして以下の行動を起こし、実証作業にかかるべきだ。時間は多く残されてはいない。</p> <p>(1) 市民等を対象としたセミナーの早期開催  (2) 若手企業人等を軸とした、民間検討チームの編成  (3) 庁内に「特任チーム」編成</p>

質問 順位	質問 内 容
5	<p>1 原子力災害時の対策は</p>
議席	<p>(1) 柏崎刈羽原子力発電所に災害があった場合に、南魚沼市への避難民は何人くらいと想定しているのか。</p>
22	
牧 野 晶  (複 合 型 一 門 一 答 方 式)	<p>(2) 避難を受け入れる状況だけでなく、市民が避難しなければならない状況も想定しなければならないが、対応は。市が避難指示を出す場合もあれば、市民が子どもの事を思い自主的に避難する場合もある。その対応も考えなければならないのではないか。</p>
	<p>(3) ガソリンなどの燃料は。</p>
	<p>(4) 隣接自治体との連携・情報交換は。</p>
	<p>2 南魚沼産コシヒカリ普及促進について</p> <p>(1) 市内の市立病院や民間福祉施設及び公共施設における食事について、南魚沼産コシヒカリの使用状況はどうなっているのか。</p> <p>(2) 市の建設業界など、市行政と切っても切れない団体等にも南魚沼産コシヒカリの利用促進をお願いするべきだと思うが。</p> <p>(3) 農協と協力し販売促進をする事は大切だが、生産者の意見も大切だと思うが。</p> <p>3 若者や子育て世代の声を大切に</p> <p>昔と違い若者会議や子育て世代の声など、いろいろな世代の意見の聴取をし市政に反映をしているが、実現までの工程の中なかなかスピードが感じられない。スピード感を持って、若者や子育て世代の定住対策に取り組むべきだ。</p>





質問 順位	質 問 内 容
7	<p>市民によるまちづくり支援のための「まちづくりファンド」の設立を</p>
議 席	
7	
<p>桑 原 圭 美</p> <p>(一問一答方式)</p>	

質問 順位	質問 内 容
8	<p><b>1 犬猫の殺処分ゼロ実現に向けて</b></p>
議席	
15	
中 沢 一 博  (一問一答方式)	<p>全国の犬猫の殺処分数は減少傾向にあるものの、2012年度は16万匹を超えており、県などに引き取られた数の約8割に上っている。その中、昨年9月に改正動物愛護管理法が施行され、動物が命を終えるまで面倒を見る責任が明確化された。そこで、当市の実態と“犬猫殺処分ゼロ”実現に向けて、伺う。</p> <p>(1) 当市の犬猫の殺処分の実態と取り組みについて  (2) 「犬・猫の住民票」発行について  (3) 犬猫の不妊去勢措置に対する支援補助制度の創設について</p> <p><b>2 若者の就労支援促進について</b></p> <p>人口減少問題は待ったなしで、各自治体にとって重要課題である。国を挙げて人口減少問題対策本部を設置した中で、総合的な取り組み議論を開始しようとしている。</p> <p>女性や若者が首都圏に出なくともいいように、地方に雇用の場をどう確保するか、知恵が求められている。子育て支援策の充実や結婚をサポートする「出会いの場」の創出、地元雇用の確保など、連携した中で全力で取り組まなければならない。そこで雇用に絞った中で伺う。</p> <p>(1) 若者の雇用実態をどうとらえているのか。また雇用戦略は。  (2) 若者の積極的なU・Iターン就職支援について</p> <p><b>3 空き家対策の強化・推進について</b></p> <p>高齢化や人口減少を背景に全国でも空き家が増え続け、問題になっている。全国の空き家数は820万戸にのぼり、住宅総数に占める割合も13.5%で、いずれも過去最高となった。当市では、景観上の問題だけではなく、通学路の安全確保、特に冬の降雪による倒壊や災害時の妨げになる恐れがある。自治体の対応だけでは限界があるのは十分承知している。法整備など国の後押しが必要と感じるが。市長の決意を伺う。</p>

質問 順位	質 問 内 容
9	1 南魚沼市における防災教育について
議 席	
1	
永 井 拓 三  (一 問 一 答 方 式)	<p>東日本大震災以降の国策は「国土強靱化計画」にはじまる社会基盤整備に力を注いでいる。その成果が徐々に道路や構造物に現れ始めているが、実際に被害を受けた建物や道路などは100%までとはいかなくとも、少なからず元の状態に戻すことができる。しかし、人命については失った場合に戻ってくることはない。そこで社会基盤整備以外にも防災教育に力を入れ、市民の防災意識を高め、災害対応能力を高めることこそが人命を失う確率を抑える効果的な手法である。その点で、防災訓練は重要なことではあるが、防災訓練はあくまで避難手順を確認するものであり、防災教育とは本質が異なるものである。そこで、我が市における防災教育の現状と今後を問う。</p> <p>(1) 我が市における防災教育の現状について</p> <p>(2) 防災教育の計画について</p> <p>(3) 各種災害の危険箇所の把握と、市民への周知方法について</p> <p>2 十二沢川の氾濫への今後の対策について</p> <p>ここ10年で日本の気候変動並びに建物、道路などの構造物の変化にともない、予想だにしない雨や雷などの気象災害が頻発している。ことに六日町駅周辺地域では十二沢川の改修が県の事業として始まったが、8月に入って2回も氾濫し床下浸水の被害にあった。このように変化する気象状況に対応するためにも、様々な対応策を練る必要がある。そこで、今後の十二沢川の氾濫への対応策について問う。</p>

質問 順位	質 問 内 容
10	<p>1 南魚沼産コシヒカリについて</p>
議席	<p>「農政改革」が米価を直撃、米を作って飯（メシ）が食えない。農家の不安が広がっている。2018年の減反廃止に向けて、ある程度下落は、予想も覚悟もしていたが、このままでは小規模農家はもとより、これからの農業の担い手や、法人組織さえも危機感を抱く。南魚沼市独自の農業政策を早期に示していく必要があると考える。</p>
4	
清 塚 武 敏	<p>(1) 2014年産米の仮渡金が示された。過去最低の14,200円である。加速する米価下落について、どう考えるのか。</p> <p>(2) 平成27年産の減反が達成できなかった場合、あるいは県からの配分に協力しなかった場合は、市としてどれくらいのマイナスになるか、試算はあるのか。</p> <p>(3) 来年度に向けて、「南魚沼産コシヒカリ」ブランドをどう確立していくのか。需要拡大にどう取り組んでいくのか。</p> <p>2 認知症対策について</p> <p>認知症は高齢者の4人に1人、全国推計で462万人がいると言われている。軽度の認知症予備軍も400万人いると言われている。早期診断、早期対応が必要と考える。</p>
(一 問 一 答 方 式)	<p>(1) 市の認知症患者の現状と、認知症施策について伺う。</p> <p>(2) 介護保険施設での認知症患者対応力は。</p> <p>(3) 徘徊者等の対策は。</p>

質問 順位	質問内容
11	<p style="text-align: center;">三中学統合に向けた生徒のメンタルケアについて</p> <p style="text-align: center;">平成30年4月に三中学完全統合が迫る中で、生徒たちの精神的不安の解消が重要な課題であるが、どのような対策を講ずるのか。</p>
議席	
2	
<p style="text-align: center;">塩 川 裕 紀</p> <p style="text-align: center;">（一括質問一括答弁方式）</p>	

質問 順位	質問内容
12	<p><b>1 経済対策、公共投資、公共事業について</b></p>
議席	
19	<p>従来、競って入札に参加すべき公共工事が不調で、落札者なし、応札者なしなどの異変が起きている。状況を判断すれば、やむを得ない現実が見えてきて、しばらくは改善しないのではないかと思われる。この状況にあって、国や県からの指導、市独自の対策はないのか伺う。</p>
<p>今 井 久 美  (一問一答方式)</p>	<p><b>2 人口減少社会について</b></p> <p>(1)「人口減少問題プロジェクトチーム」の最近の動向について伺う。</p> <p>(2) 50代、60代で人生の伴侶に巡り会わなかった人に幸せを。</p> <p><b>3 水素社会について</b></p> <p>シェールガス、メタンハイドレートなど、3.11以後、原子力発電の止まった日本に希望の光が見えてくるニュースが報道されている。中でも「水素エネルギー」について、総理答弁で「国策」として取り組む発言があり、その進展を注視している。まだまだ不明確なところがあり、具体的な事例を上げて政策を問う段階にないが、今現在で市長の思うところを伺う。</p>

質問 順位	質 問 内 容
13	<p>1 東日本大震災の被災地への義援金について</p>
議席	
5	<p>3年前の大震災の時、全国で始まった義援募金について、南魚沼市の取組みの経過と、今後の予定を伺う。</p>
勝 又 貞 夫	<p>2 地元小・中学校の教育水準について</p> <p>全国レベル及び県レベルで見て、南魚沼市の教育水準はどれくらいか。水準の引上げについて、教育現場の姿勢とその取組みについて伺う。</p> <p>3 地元と雪国観光圏について</p> <p>新潟・長野・群馬の3県にまたがる雪国観光圏について、市はどのように関わってきたのか。その取組みの経過と将来ビジョンについて伺う。</p>
(一問一答方式)	

質問 順位	質 問 内 容
14	<p style="text-align: center;"><b>現場からの日常的改善活動を</b></p> <p>プール塩素剤流出や高齢者運動会役員への案内通知ミス、道の駅死亡事故、相次ぐ失念による報告ミス等、表に出る相次ぐ問題の奥には、さらに多くの問題が発生しているように推察する。市民の職員対応に対する厳しいご意見も時折頂く。</p> <p>名誉挽回、しっかりした「頼りになる市役所」を目指し、現場からの日常的改善活動に取り組んではどうか。</p>
議席	
20	
<p style="text-align: center;">腰 越 晃</p> <p style="text-align: center;">（一問一答方式）</p>	







質問 順位	質 問 内 容
17	<p style="text-align: center;">農業問題を問う</p> <p>(1) 台風11号による当市の稲作への被害状況と対応はいかがか。</p> <p>(2) 当市における農地中間管理事業の現状と今後の方向は。</p> <p>(3) 中山間地直接支払い事業の取り組みについて</p>
議席	
26	
<p style="text-align: center;">若 井 達 男</p> <p style="text-align: center;">（一括質問一括答弁方式）</p>	

質問 順位	質問内容
18	<p>1 ふるさと納税について</p>
議席	<p>特産品（特に米）を売る施策としても取り組むべきだが、いかがか。</p>
12	<p>2 塩沢小学校のプールから伊田川へ塩素濃度の高い水が流されたことについて</p>
塩 谷 寿 雄	<p>各部署との確認と対応はどうなっているのか。</p>
(一問一答方式)	

質問 順位	質問 内 容
19	<p><b>1 高校生の通学に助成ができないか</b></p>
議席	
13	<p>日常生活において、公共交通網の利用度が低下しているため、徐々にその便数が減らされてきた。夫婦共働きの時代の中、高校生の通学で特に冬期間は支障をきたしている。現在、高校生を持つ親が保護者会を作り、民間のバスを借上げて運行している。通学人数が減少しており、毎年1人当たりの負担が大きくなっているのが現状である。通学に対し、何らかの助成措置ができないか伺う。</p>
小	
澤	<p><b>2 市制施行10周年記念事業の中間点での評価と後半への展望は</b></p>
実	<p>(1) 自主企画事業は半分以上終了し、計画に対しての実績、そして反響はどうか。</p>
(複合型一問一答方式)	<p>(2) 市の企画事業に対する市民からの「声」を後半の事業にどう反映していくのか。</p>



質問 順位	質問 内 容
2 1	<b>地域医療について</b>
議席	
2 3	
阿 部 久 夫  (一問一答方式)	<p>(1) 基幹病院も工事が順調に進み、平成 27 年 6 月の開院も間近に迫り、市民の期待が大きい。また新市立病院も工事が着手され順調に進んでおり、一段と大きな期待が高まっているが、一番心配されるのが、医師や医療スタッフである。今までも多くの議員が質問しているが、現段階での見通しと、誰が責任をもって動くのか伺う。</p> <p>(2) 今後 2 つの市立病院が存在する中、これまで大和病院が築き上げてきた地域包括医療を継承し、在宅医療、終末医療、高齢者医療の充実を図り、周辺医療機関と連携し地域に密着した医療を予定するとあるが、新市立病院にも引き継がれるのか伺う。</p> <p>(3) 地域医療を支えるには、地域住民の保健、医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することが目的である地域包括支援センターを中核として位置づけ、訪問介護、在宅医療などを一体化することが必要である。地域包括支援センターの位置づけについて伺う。</p> <p>(4) これからは、総合診療科の時代がやってくると言われ、魚沼基幹病院も総合診療医の育成を行うようである。高齢化率の高い当市でも、いくつかの病気を併発している患者は総合的な診断が必要になってくる。新市立病院には是非総合診療部門を設けるべきと思うが、どのような認識か伺う。</p>

質問 順位	質問内容
22	1 市内のホテル・旅館の「おもてなし」について、市長の考えを伺う
議席	
11	<p>前年度と比較して、宿泊者数は増加の傾向であるが、果たして満足できる集客であるだろうか。外へ発信はしているだろうが、ただ現状維持ではいけないと思う。特に、来ていただいた人たちへの「おもてなし」はどうか。我々は、宴会を設営するに当たり「ごっつおがねえどもしかたねえ、そこにするか。」が合言葉である。我々は義理で我慢したとしても、果たして宿泊者は満足しているだろうか。質の向上を目指し、集客を増やすべきではないだろうか。</p>
鈴木	<p>2 登川河川公園の利用について伺う</p> <p>市外の観光客にとって、これほど親切な公園はない。無料で水・トイレは使い放題。残るのはごみだけ。地元が利用する時は、夜や早朝にブルーシートを敷きに行かなければならない。市外からの人たちは市内で食材を買うわけでもない。市民や観光の誘客に利用されるべきと考える。現状では何のメリットも見つからない。今後、利用形態を見直すべきではないか。</p>
一	
(一問一答方式)	



